

告 辞

このたび入学されました新入生の皆さん、そして保護者の皆さま、おめでとうございます。学校生活も、様々な制約を余儀なくされる状況が続きますが、ともあれ今日このように、金光藤蔭高等学校の入学式が挙行できますことを、共に慶ばせて頂きたいと思えます。

本校は、金光教の教えに基づく建学精神をもって設立された、金光教ゆかりの学園であり、九十六年の歴史と伝統を備えた学校です。依然、コロナの影がさす中ではありませんが、今日からスタートする新入生の皆さんの学園生活を、ここからしっかりと見守ってまいりたいと思えます。

さて、今も少し触れましたコロナ感染症に関して、その影響が及び始めた、二年ほど前のことを思い出すことがあります。初めの頃は、コロナの発生原因が、新聞などでよく伝えられていました。識者によりますと、今回のコロナウイルスの流行は、野生動物が持っていたウイルスが感染源となって、人間に広がったものだと言います。野生動物は昔から、感染源となるウイルスを宿していました。けれども、そういう野生動物と人間とは接触する機会がなかったので、人へ感染が広がることはありませんでした。

ところが、昔は接触する機会がなかった人と野生動物が、接触するようになってきたと言うのです。その理由は、人間が力まかせに自然開発を進めてきた結果だそうです。素人理解ながら、人間が開発のため、どんどん自然の奥地まで入り込んだ結果、それまで接触する機会がなかった野生動物と人が、接触するようになったことが原因だ、という指摘に頷かされました。

感染源とされる動物が、悪いのではないのですね。人間の自己中心的

な自然開発が、問題だったのです。私は、こういう指摘を聞かされて、まずもって私たちには「お詫びをする心」が必要だと感じました。識者の指摘を素直に理解すれば「こうなったのは私たち人間が、過度な開発をやり過ぎたからだ」ということになります。言ってみれば、自業自得なのかも知れませんが、ひよっとしたら、破壊された自然からのしっぺ返しを受けているのかも知れません。

私が申した「お詫びの心」とは、「自分一人だけで生きているわけではない」ことを知る心です。人のことでも自然のことでも、自分以外のことを考えられる心です。自分以外の人や物のお世話になり、支えられ、助けられていることに気づく心です。そういう心が少しもなければ、どんなことをしても「申し訳ない」というお詫びの思いは出て来ません。そういう心があつてこそ、自然に対しても、お詫びという思いが生まれて来るのではないのでしょうか。

とは言え、コロナという難敵を前にすれば、やはり一日でも早い感染終息を望むのが、私たち人間です。どうやって感染から逃れるのか、どうやって終息へのトンネルを抜けるのか、どうやってコロナの影響から生活を立て直していくのか、そのことで頭がいっぱいになっていきま

す。ただその時に、皆さんも私も、自分の助かりだけを優先してしまうとか、自分さえよければ構わないといった、そういう心で占領されてしまわないような自分でありたいと、願わせられるのです。

そしてこのことは、今日までこの学園で大切にされて来た教育精神でもあることを、最後に申し上げて、縁あって本学の門をくぐられた皆さんへの、告辞いたします。

令和四年四月五日

学校法人 関西金光学園理事長 湯川 彌壽善